

# 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4079500148
法人名	有限会社 グループホームひまわり
事業所名	有限会社 グループホームひまわり
所在地	福岡県田川郡糸田町 4113-1 (電話) 0947-26-2622

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポート うりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成21年11月14日	評価確定日	平成21年11月28日

## 【情報提供項目より】(平成 21 年 10 月 1 日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	昭和 <del>48</del> 成 14 年 11 月 1 日		
ユニット数	2	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤 10 人, 非常勤 11人, 常勤換算	15.6 人

### (2)建物概要

建物構造	木造 鉄骨 造り		
	平屋	1 階建ての	1 階 ~ 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	8,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (八店一時並立 お)	有( ) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	1日 933円		

### (4)利用者の概要( 10 月 1 日現在)

登録人数	17 名	男性 3 名	女性 14 名
要介護1	9	要介護2	2
要介護3	4	要介護4	1
要介護5		要支援2	1
年齢	平均 79.7 歳	最低 64 歳	最高 94 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	糸田町緑ヶ丘病院 田中医院(内科・外科) 境井田クリニック 諫山医院(内科・歯科・皮膚科) 藤下医院
---------	---

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開所7年目を迎えるグループホームひまわりは平成鉄道駅前のスーパーを改造した2ユニットのホームである。毎年、入居者が生活し易いように改造しているが、今年は玄関前の雨よけの設置や玄関・廊下・台所の床を張替え、入居者から車の昇降が楽になったり歩きやすくなったと喜ばれている。居室も上履きそのまま使えるように滑らない床材を敷くことなど、入居者の状況に併せ柔軟に改造している。主治医の指示を受けた地域の理療師からホームでマッサージやリハビリが受けれるように支援したり、マッサージや電気治療等の器機をホームに整備したりしている。今年も恒例の旅行でハウステンボスに行き、サーカスや花々・風車を見て回っているが、旅行参加を目標にリハビリ等に励んでいる。運営者や管理者の前向きで暖かな日々に関わりから、逝去された家族が懐かしいと寄宿したり、地域の方の来訪も増えている。また、毎年地域の文化祭に職員と入居者で作った作品を出品したり、入居者が信仰する教会の関係者に理解や協力を求め、これまで同様に通えるように支援するなど、地域との関りの継続を支援している。家族が意見を表出する機会として、運営推進会議に出席された家族の介護体験や入居に至る経緯を伺ったり、旅行や外食に参加する家族もあることから、今年度から家族の会と位置づけている。毎日唱和する社訓は全職員に周知され、地域密着型サービスの方針を共有しながら日々のケアに取り組んでいることを、これらのエピソードが物語っている。定期的に発行している新聞「ふれあい」で、新型インフルエンザや熱中症の情報を地域に発信し、今後は念願の地域同業者のネットワークづくりへの参画も期待できる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価結果に沿って、改善シートを作成し、把握した入居者の生活暦や職歴の整備、介護計画への家族の意向の明記、高齢者虐待防止マニュアルの整備、終末期について家族との話し合い等に取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は職員それぞれが項目別に検討し、管理者がまとめている。
重点項目②	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6) 運営推進会議実施要領は未整備であるが、2ヶ月毎に町担当者や民生委員、家族等の参加で会議を開催している。外部評価結果やホーム行事や日々の生活状況を報告し、参加した家族から、毎年実施している旅行や外食の本人負担を検討してほしいとの意見があったり、家族に介護体験や入居にいたるまでの経過を話してもらっている。会議録を整備し、会議に提出したホーム行事や入居者や居室状況、参加者名簿を玄関に設置した棚で公表している。また、出席した町担当者に新型インフルエンザの情報の提示を求めたり、担当者からは町内の同業者からネットワークについての意見があったことが報告されている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8) 入居者の暮らしぶりや写真などを掲載した新聞「ふれあい」を年4回発行したり、来訪時や電話などで暮らしぶりや健康状態を報告している。金銭管理は金銭出納帳が整備され、毎月家族に説明し、係わった職員や家族の確認印がある。成年後見制度や日常生活自立支援事業のパンフレットを整備し、入居時に利用者・家族に説明している。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会への加入はないが、毎年地域文化祭に入居者の作品を出品している。また、玄関入り口に設置した棚に年4回発行の「ふれあい」を備え、ホーム行事や新型インフルエンザや熱中症の情報を提供したり、運営推進会議資料を公開している。入居者が通っている教会の担当者に、心身状況を説明し、送迎や見守りの協力をお願いしている。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	社訓やホーム理念を玄関の見易い位置に掲示している。入居者の心身の特性を踏まえて、その能力に応じ自立した日常生活を営むことができるように、日々の心構えである社訓を活かしている。	○	重要事項説明書に地域密着型サービスの方針である「家庭的な環境、地域との交流の下」を明記しているため、運営規程や契約書・パンフレットにも明記し、さらなる地域交流を期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者や管理者は社訓や理念を機会あるごとに、職員に話している。職員は社訓や理念に沿って、入居者の生活暦や職歴を活かしながら、笑顔のある生活を支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への加入はないが、毎年地域文化祭に入居者の作品を出品している。また、玄関入り口に設置した棚に年4回発行の「ふれあい」を備え、ホーム行事や新型インフルエンザや熱中症の情報を提供したり、運営推進会議資料を公開している。入居者が通っている教会の関係者に、送迎や見守りの協力をお願いしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員それぞれが項目別に検討し、管理者がまとめている。前回の外部評価結果に沿って、改善シートを作成し、把握した入居者の生活暦や職歴の整備、介護計画への家族の意向の明記、高齢者虐待防止マニュアルの整備、終末期について家族との話し合い等に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議実施要領は未整備であるが、2ヶ月毎に町担当者や民生委員、家族等の参加で会議を開催している。外部評価結果やホーム行事や日々の生活状況を報告し、参加した家族から、毎年実施している旅行や外食の本人負担を検討してほしいとの意見があったり、家族に介護体験や入居にいたるまでの経過を話してもらっている。会議録を整備し、会議に提出したホーム行事や入居者や居室状況、参加者名簿の資料を玄関に設置した棚で公表している。また、出席した町担当者に新型インフルエンザの情報の提示を求めたり、担当者からは町内の同業者からネットワークづくりについて意見があったことが報告されている。</p>	○	<p>運営推進会議を活かした取組みを促進するためにも、会議の目的・開催日・メンバー・守秘義務・個人情報の取り扱いを明記した運営推進会議の実施要領の整備をお願いしたい。</p>
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議で話題にした新型インフルエンザ情報を地域に提供したり、同業者ネットワーク作りを担当者と話し合っている。</p>		
7	10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。</p>	<p>権利擁護の研修会に参加し、会議で職員に伝達している。成年後見制度や日常生活自立支援事業のパンフレットを整備し、入居時に利用者・家族に説明している。日常生活自立支援事業のパンフレットは玄関の棚に整備し、来訪者にも情報を提供している。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>入居者の暮らしぶりや写真などを掲載した新聞「ふれあい」を年4回発行したり、来訪時や電話などで暮らしぶりや健康状態を報告している。金銭管理は金銭出納帳が整備され、毎月家族に説明し、係わった職員や家族の確認印がある。</p>		
9	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明書にホーム及び行政機関の意見苦情窓口を明記し、意見箱を設置している。家族の参加がある毎年恒例の旅行や外食の機会を家族の会と位置づけている。今年の旅行は3名の家族が参加している。運営推進会議で家族から提案された旅行や外食費用の負担については、できるだけ多くの参加を募りたいので負担は検討しない事を運営者が家族に伝えている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の異動はあるが、離職が少なく馴染みの職員も多く、全体でカンファレンスを行うことで入居者の情報を共有している。非常勤職員を常勤職員に採用したり、勤務時間を考慮することで、職員の離職を防止している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	運営者からの声かけで入職した職員が多いが、正直である事と、この仕事に向いているのかを重視している。雇用契約書や就業規則が整備され、定期健康診断も実施している。訪問介護員や介護福祉士の資格習得を支援している。休憩室が確保されている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	高齢者虐待防止に関する研修会に参加し、伝達講習を行っている。機会ある度に法人代表、管理者は人権に関する話をしている。身体拘束防止マニュアルを作成し、入居時に身体拘束がやむを得ない場合の同意書を取り交わしている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間行事計画に研修や勉強の機会を位置づけている。職員の段階に応じて車イス移乗、権利擁護、個人情報保護、高齢者虐待防止等の研修に参加している。介護支援専門員が担当してビデオやDVDを活用した内部勉強会を行ったり、指導者体制に取り組んでいる。職員の悩みごとなどは運営者がスーパーバイスをしている。	○	職員の段階に応じて実施している指導内容をフローチャートやポイント等にまとめ、新任及び現任研修計画の作成をお願いしたい。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県高齢者グループホーム協議会の加入はないが、協議会主催の研修会に参加している。また、念願であった地域同業者ネットワークが町担当者の参画で実現しつつある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の希望による入居が多いが、本人が納得して入居するために訪問や見学をお願いしている。最近の入居は、医療機関からの入居者で、入院先に2回出向き、本人と話す機会を設けたり、医療機関からの情報を得て、本人が安心して入居できるように支援している。このような対応が功を奏し、主治医や家族が驚くほど落ち着いた暮らしをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者との日常会話、昔の話、対応等で教えられることが多いと話している。訪問調査当日、入居者が食卓について調査員にお茶を出すように職員に話す場面もあった。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートを整備し、心身の状況や入居者の生活歴・職歴を整備している。業務日誌や個人記録に把握した入居者の言動や意向を記載している。意向にそった生活のペースを週間計画表に整備している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者や介護計画作成担当者が把握した入居者や家族の希望や思い、入居前の医療機関等からの情報に基づき、担当者会議で介護計画を作成している。入居者や家族に介護計画を説明し、了承を得ている		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のカンファレンスで入居者の変化や気付きを検討し、入居者や家族の意見や希望に沿って、定期的または随時介護計画を見直している。夜間のみ居室に設置したポータブルでの排泄を支援したり、オムツはずしの経過を毎月のカンファレンスで話し合っている。見直した介護計画は入居者及び家族等に説明し、了承を得ている。	○	入居者の言動や職員の気付きを話し合ったカンファレンス記録や毎月のモニタリング記録を整備することで、介護計画の見直しに活かしていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	マッサージや電気治療等の器機を整備し、主治医の指示で来訪した理療師から、マッサージやリハビリが受けられるように支援している。家族の状況に応じて、入院時の世話等を引き受けたりしている。		
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や協力医療機関受診を支援したり、毎月2回の訪問診療で健康管理を支援している。受診状況は家族の訪問時や電話で随時伝えている。訪問診療と訪問看護の来訪を同日にすることで、十分な連携体制がある。訪問看護用の連絡ノートを整備し、入居者の申し送りを確実にしている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する方針・同意書を整備し、入居時に家族等に説明している。緊急入院後亡くなった入居者もいるが、短期間の入院で亡くなる入居者が多い。3月から個別に家族と話し合っているが、ほとんどの家族がホームでの看取りを希望している。今後も、家族や主治医と話し合い、重度化や終末期には随時対応する予定である。	○	終末期の心身の変化に沿った具体的な対応マニュアル(手順書)の整備をお願いしたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護に関する規程を整備し個人情報利用目的を明記しているが、掲示していない。契約書や服務規程に職員の守秘義務を明記し、入居者にあわせた声かけや丁寧な対応をしている。入室時はノックし、羞恥心を配慮した声かけをしている。	○	個人情報の保護に関する規程や利用目的の事業所内の掲示や研修実施録の整備をお願いしたい。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の意向やペースで食事や日中の過ごし方を支援している。昼食後、各ユニットの共有空間のソファで昼寝をしている入居者も多い。健康歩行器で汗を流したり、喫煙場で職員からタバコに火を点けてもらい、ゆったりと喫煙する入居者もいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が漬けた白菜漬けや床漬けが食卓を賑わすこともある。能力に応じて調理のしたごしらえや、配膳・下膳を支援している。職員2名が伴食をしている。時には外食を楽しんでいる。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している	隔日の入浴を支援したり、午後8時まで入浴ができるようにしている。各ユニット毎に浴室が設置され、順番で入浴している。入浴剤を活用し、入浴を楽しんでいる。長期入院から入居に至った利用者は、久方ぶりに湯船に浸かることが出来、大喜びされた。入浴拒否には声かけのタイミングや他の職員のこえ掛けなどの工夫で入浴を支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	白菜漬けや床漬けに腕をふるったり、洗濯物たたみ、料理の下ごしらえ、園芸、カラオケ、工作、うちわの張替えなど楽しみごと等を支援している。今年も職員と一緒に紙ロールを使って風景画を制作し、文化祭に出品している。爪楊枝と割り箸で5重の塔を作成している入居者もいる。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	今年も恒例旅行はハウステンボスにでかけ、サーカスを見学し、花々や風車に感激している。家族が3人参加している。日ごろは近所の散歩や商店への買い物に同行したり、信仰している教会に通いやすいように支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関は施錠せず、鳥の鳴き声のセンサーをドアに設置している。ホームの外の空気を吸うために、玄関前のスロープまで出て行く入居者もあり、見守りで支援している。居室は施錠できるが、掛けてない入居者が多い。入居者の言動に留意し、近隣や警察には理解や協力をお願いしている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害マニュアルを作成し、避難経路を掲示している。10月ホームで避難訓練を実施している。地元消防団や消防署に協力をお願いしている。スプリンクラーや消火器が設置され、お茶・ポカリスエット等を備蓄し、消費や賞味期限を考慮し定期的に入れ替えをしている。	○	計画している地域や消防署との消火・避難訓練の実施を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>一日の食事は1800Kcalで、入居者毎の食事・水分摂取量を記録している。主治医の指示で既往症に応じた食事量や水分摂取を支援したり、咀嚼や嚥下状態に合わせた食形にしているが、できるだけ形のある食事を支援している。入居後、1日3食の食事で体重が増加している入居者もあり、過度な体重の増減を防止するために、毎月体重測定をしている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>スーパーマーケットを改造したホームで、全館床はフラットである。スロープのある玄関は四季の花が飾られ、入口に設置された棚には広報紙やパンフレット等を整備したり、入居者手作りの神輿やお城の作品を展示している。各ユニットに食堂や居間が設置され、居間にはこたつやソファや椅子が置かれ、入居者はお気に入りの場所でテレビを見たり、昼寝をしている。居間のベッドでマッサージを受けている入居者もいる。日差しをブラインドで調整し、空調の整備や防臭に配慮している。洗濯場や廊下にも椅子やソファが置かれ、喫煙場所も設けている。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室のドアには入居者の希望に応じた手作りのネームプレートを掛けている。廊下から居室入り口の段差を解消し、畳敷きの居室や上履きのままで入れるように床材を敷いた居室があり、入居者の状況でベッドや布団を使っている。特殊寝台をレンタルしている入居者もいる。窓の上に光採りの窓がある居室は明るく、馴染みの家具や仏壇が持ち込まれている。</p>		